

Patient Derived Xenograft セミナー

患者由来がんモデルの創薬研究への展開

2016年、米国立がん研究所が抗がん剤スクリーニングに長年用いられてきたXenograftモデルを、患者由来腫瘍異種移植モデル(PDX)に切り替える方針を示してから4年になります。日本で確立した、日本人由来のPDXを使用した創薬試験が実施できる体制が整い、この度セミナーを開催させていただくことといたしました。当日は、PDX等を使用した受託試験についても紹介いたします。

参加無料・事前申し込み制 申込期間: 5/11(月)まで

日時: 2020年5月19日(火) 13:30~17:40

日程が変更されています。ご注意ください。

場所: 日本橋ライフサイエンスハブD会議室

東京都中央区日本橋室町1-5-5 室町ちばぎん三井ビルディング8階(COREDO 室町3)

プログラム

時間	内容
13:30~13:45	開会のご挨拶 福島県立医科大学 医療-産業 TRセンター 片平 清昭 特任教授
13:45~14:35	患者腫瘍組織移植モデル(F-PDX)と患者腫瘍組織培養細胞塊(F-PDO)の紹介 福島県立医科大学 医療-産業 TRセンター 高木 基樹 教授
14:35~15:25	招待講演: 希少がん研究の視点からの患者由来モデルの現状と展望 国立がん研究センター研究所 希少がん研究分野 近藤 格 分野長
15:25~15:40	休憩
15:40~16:30	特別講演: 固形がんに対する次世代型 Prime CAR-T細胞の開発 山口大学大学院 医学系研究科 免疫学講座 玉田 耕治 教授
16:30~16:50	F-PDXとF-PDOのin vitro(ex vivo)アッセイを用いた抗がん剤評価の受託試験 富士フィルム和光純薬バイオソリューションズ(株) 天野 誠 氏
16:50~17:10	In vivo imagingシステムを用いた最新のアプリケーションと免疫刺激全血カルチャーデバイス "TruCulture®"の紹介 住商ファーマインターナショナル(株) 堀内 真千子 氏 他
17:10~17:30	PDXを使用した創薬サポートのためのIn vivo試験 日本チャールス・リバー(株) ディスカバリーサービス 木村 泰治
17:30~17:40	閉会のご挨拶 日本チャールス・リバー(株) 代表取締役社長 武本 行弘
18:00~20:00	情報交換会

主催: 一般社団法人バイオ産業情報化コンソーシアム(JBIC)

共催: 日本チャールス・リバー(株)

お申込み/お問い合わせ

日本チャールス・リバー(株) マーケティング・ビジネス開発部
ホームページ申し込みフォームからお申込みください。

<https://www.crj.co.jp/>

福島県立医科大学 医療-産業TRセンター 高木 基樹 教授

患者腫瘍組織移植モデル(Fukushima patient-derived tumor xenograft: F-PDX)と長期培養が可能な患者腫瘍組織培養細胞塊(Fukushima patient-derived tumor organoid: F-PDO)を用いたヒトがん組織の状態を反映した抗がん剤の薬効評価システムの開発について紹介する。

国立がん研究センター研究所 希少がん研究分野 近藤 格 分野長

基礎研究の基盤が脆弱であり、抗がん剤の市場規模の小さい希少がんにおいては、患者由来がんモデルの開発が切実に必要とされている。本講演では、患者由来「希少がん」モデルの現状と課題について述べる。

山口大学大学院 医学系研究科 免疫学講座 玉田 耕治 教授

遺伝子改変技術を利用した免疫細胞療法であるCAR-T細胞は血液悪性腫瘍に対して優れた治療効果を発揮することが示され、新たな治療モダリティとして承認された。一方で、固形がんに対するCAR-T細胞療法では未だ高い有効性が認められておらず、新たな技術改良が必要とされている。本講演では近年演者らが開発したPrime CAR-T細胞の固形がんに対する優れた治療効果を紹介し、そのメカニズムについて考察する。

富士フィルム和光純薬バイオソリューションズ(株) 天野 誠 氏

福島県立医科大学で開発された抗がん剤 *in vitro* (*ex vivo*) 薬効評価システムを用い、F-PDO および F-PDX に適用した細胞増殖阻害試験や細胞傷害試験等について紹介し、がん細胞株での測定結果との対比による優位性について説明する。

住商ファーマインターナショナル(株) 堀内 真千子 氏 他

In vivo imagingシステムとしてデファクトスタンダードであるIVISを用いた、がん研究領域における最新のアプリケーション紹介と、がん免疫領域の創薬研究で注目を浴びるTruCulture[®]を紹介する。TruCulture[®]を用いることで、簡易な操作で全血培養を行うことができ、従来の方法よりも安定した結果を得ることができる。TruCulture[®]は創薬研究の現場の声から誕生した新しいデバイスである。

日本チャールス・リバー(株) ディスカバリーサービス 木村 泰治

チャールス・リバーは Jackson 研究所に加え、新たに2018年に国立がんセンター、2019年に福島県立医科大学とPDX使用に関する契約を締結し、併せて900種以上のPDXが使用可能になった。Charles Riverが使用できるPDX腫瘍および創薬支援サービスについて紹介する。

会場ご案内

日本橋ライフサイエンスハブD会議室
〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1-5-5
室町ちばぎん三井ビルディング8階(COREDO 室町3)

東京メトロ銀座線・半蔵門線「三越前」駅より直結、JR総武快速線「新日本橋」駅より直結
JR山手線・京浜東北線・中央快速線「神田」駅南口より徒歩9分
JR山手線・京浜東北線・中央快速線「東京」駅日本橋口より徒歩9分

会場へのアクセスは次のURLをご参照ください。「<https://www.link-j.org/access/hub.html>」